

情報公開用文書（横浜市立大学附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2023 年 2 月 22 日作成 第 1.0 版

研究課題名	甲状腺核医学治療における吸収線量の有効性に関する後ろ向き観察研究
研究の対象	2015 年 4 月～2023 年 3 月の間に、横浜市立大学附属病院で甲状腺がんの外来アブレーション療法を受けた患者さんのうち、治療開始時の年齢が 18 歳以上の方を対象とします。
研究の目的	遠隔転移の無い分化型甲状腺がんの患者さんの治療として甲状腺を全て摘出する手術が行われる場合があります。しかし、手術では全ての甲状腺を取りきることが難しく、一部の残された甲状腺への補助療法として外来アブレーション療法が行われています。 この補助療法放射性医薬品を用いて残された甲状腺を消滅させる治療法です。成功率は 23.4 から 73.5%と過去に報告されています。そのため補助療法が成功したかを確認するために半年から一年後に血液検査や核医学検査で判定しています。 この補助療法で使用する薬剤は、専用の装置で検査する事により、残された甲状腺に薬剤がどれくらい集積しているかを画像化することができます。この甲状腺への薬剤の集まりを評価する事で、補助療法の時点で成功の判断が予測できる可能性があります。 そこで今回はその集積を評価するために新しい解析方法を導入し、薬剤の集積を数値化します。この解析方法で得られた数値の有効性を検討することを目的としています。
研究の方法	外来アブレーション療法で撮影された画像を解析し、求めた数値と補助療法の成功不成功を比較し、補助療法の成功不成功の予測が可能であるか検討します。 いずれも通常の診療で得られた情報を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究期間	承認日 ～ 2024 年 3 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の項目	【試料】 該当しません。 【情報】診療録から以下の情報を収集します。 ・背景情報：年齢、性別、体重、身長 等 ・手術情報：術式 等 ・画像検査：核医学検査による SPECT/CT 検査の画像等
試料・情報の授受	本研究では、外部機関との検体・情報の授受はありません。 本研究で収集された情報は、本研究の目的以外の学術研究に用いられる可能性または他の研究機関に提供する可能性（以下「二次利用」という。）があるため、保管期間終了後も期間を定めず保管します。廃棄する際は、情報は復元できない方法で廃棄します。

情報公開用文書（横浜市立大学附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

個人情報の管理	情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう管理する表（以下、対応表）を作成して、識別コードから個人を特定することが可能になりますが、その対応表は当院外へ提供することはありません
試料・情報の管理について責任を有する者	当院の個人情報の管理責任者は病院長ですが、その責務を以下の者に委任され管理されます。 研究責任者：横浜市立大学附属病院放射線部 尾川松義
利益相反	利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の関係を含むものです。 本研究の研究者の間に、開示すべき利益相反はありません。
研究組織（利用する者の範囲）	【研究機関と研究責任者】 横浜市立大学附属病院放射線部 尾川松義
本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。	
問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 放射線部 （研究責任者・問い合わせ担当者）尾川松義 電話番号：045 - 787-2800（代表）	